



No.89 2008・9・1

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れきはく

秋季特別展

御用絵師梅田九栄と俳諧

——芭蕉の教えを守った男——



「俳詞一百一首之図屏風」より

会 期 9月20日(土)~11月3日(月・祝)
会期中無休

会 場 第1特別展示室

主 催 石川県立歴史博物館

共 催 北國新聞社

後 援 ④④④金沢放送局・北陸放送・テレビ金沢
金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川
ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななほ

特別協力 俳文学会

開館時間 午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで) 会期中無休

入 館 料 一 般 650円(520円)
大学生 500円(400円)
高校生以下無料 65歳以上は520円
()内は20名以上の団体料金

講演会 <聴講無料>

日 時 10月13日(月・祝) 午後2時~

会 場 学習ホール

講 師 大西紀夫氏(富山短期大学教授)

演 題 絵師九栄の俳諧活動

申込不要・当日受付へお申し出下さい。

列品解説 <参加無料>

日 時 10月4日(土) 午後2時~本館学芸員

申込不要・当日受付へお申し出下さい。

秋季特別展

御用絵師梅田九栄と俳諧
芭蕉の教えを守った男

石川県は加賀・能登を問わず、俳句文化の盛んな土地柄です。江戸時代にあつて俳諧は、主に町人層を中心に愛好され育まれてきました。ことに元禄二年(一六八九)、松尾芭蕉(一六四四〜九四)が「奥の細道」行脚の帰路、曾良を伴つて当地に立ち寄り、立花北枝、立花牧童、句空、秋の坊、生駒万子、龜田小春らが芭蕉と親交、蕉風が勃興しました。

元禄七年(一六九四)、芭蕉が五十一歳で没しましたが、その没後から寛延年間(一七四八〜五二)にかけて、当地は蕉門の各務支考の美濃派、中川之由(麦林)の伊勢派の影響を受けました。伊勢派では千代女、綿屋希因らが輩出しました。希因は最初、北枝の俳統を継ぎましたが、後に支考に傾倒し、次には麦林に師事しました。その居を暮柳舎と称しました。

天明年間(一七八一〜八九)は、与謝蕪村を中心



呉道子像 六代九栄画・高田方水賛



泰雲院様御影作図資料・御太刀(個人蔵)



泰雲院様御影作図資料・御平緒(個人蔵)



泰雲院様御影作図資料・像下絵(個人蔵)

とした俳諧の中興期ですが、希因門下の高桑蘭更、堀麦水、既白、越中の八椿舎尾崎康工らが活躍し、麦林風から蕉風復興が唱えられました。この時期、津幡の河合見風の名も知られています。

文化(一八〇四〜一八)から文政・天保・弘化・嘉永年間(一八四八〜五四)にかけては、蘭更門の成田蒼虬・磨刀を業とした桜井梅室らが輩出、ともに金沢だけでなく京都や江戸など広範囲に活躍しました。とくに梅室は、その門人が五十余国に及ぶとされ、また二条家から花之本宗匠の称号を受け、嘉永五年(一八五二)に亡くなりました。

梅室没後の嘉永末から明治初頭にかけては、激しい動乱の時期で、沈滞期とされますが、北陸の地は

さほどでもなく、梅室門下の人たちが俳壇を支えました。

さて梅田家の初代である与兵衛は、慶安二年(一六四九)、江戸に出て奥絵師の狩野尚信に師事し、延宝年中(一六七三〜八一)に帰郷して狩野派の画技を加賀に伝えました。以後、梅田家は狩野派の絵師の家系として、歴代が度々藩の御用を受け、連続と続きました。

中でも八代九栄(一七九一〜一八四六)は、幼少のとき、父の六代九栄(一七五七〜一八〇〇)と兄の七代九淵(一七七九〜一八〇六)に絵を習いました。文化六年(一八〇九)の十九歳のときに前年焼失した金沢城二ノ丸御殿の障壁画制作に参画し、御奥小書院、御表書院の天井割紋や御居間書院の杉戸の絵の御用を仰せ付けられました。

また俳諧を桜井梅室に学び、年風と称し、加えて芭蕉十哲の一人である立花北枝の趙翠台の庵号を受け継ぐなど、俳諧の第一人者としても知られていま



芭蕉翁像画賛(版本) 年風画・梅室賛(部分・個人蔵)



芭蕉翁頭陀袋(個人蔵)



盆栽図自画賛 (個人蔵)



梅室・棹江・年風連坐像画賛(個人蔵)

す。趙翠台は鳥翠台とも書き、北枝の系をうけた希因や闌更・後川たちはこれを称さず、闌更門の中山眉山が二世を継ぎましたが、併行して後川の子の北茎も翠台を称しています。その後、眉山門の翠文が三世、同門の楽乎が四世、そして梅室門の八代九栄(年風)が五世を継ぎ、後に北枝堂も稱しました。また龜田小春・龜田勝善(鶴山)・眉山と伝わった「芭蕉翁頭陀袋」を入手しています。この頭陀袋



俳諧百一首図下絵・珈涼(個人蔵)



俳諧百一首図下絵・見風(個人蔵)

を龜田家で觀賞した多くの人の懐旧の吟が沢山あったのが宝暦九年(一七五九)の大火で焼失しましたが、頭陀袋は無事に焼け残ったものです。八代九栄の作品は比較的残っていますが、その多くが俳諧に係わる俳画の関係です。その注目されるのが持ち前の画才を生かし、俳諧の百人一首を屏風絵や掛幅に仕上げていることです。また著に「其如月」があり、発句や附合を集めたもので、文政七年(一八二四)の序文があります。

九代九栄(一八一五-一六〇〇)は、子供のとき、父の八代九栄に絵を習い、江波と称し、絵と俳諧をよくして趙翠

台の六世を継承しました。嘉永三年(一八五〇)二月、奥州方面を俳遊歴のため東海道回りて出かけ、帰路は北陸道を通り、十月に帰っています。また同



俳諧百一首之図屏風(部分・個人蔵)

六年(一八五三)には、北枝堂を浅野川の河縁の観音山下町に営みました。

本展は、会期中、「俳文学会全国大会」が金沢で開催されるのに協賛し開催するもので、

一、六代梅田九栄と藩主肖像画制作工程

二、芭蕉翁の頭陀袋

三、八代九栄(年風)・九代九栄(江波)の俳諧資料

(一) 八代梅田九栄(年風)

(二) 九代梅田九栄(江波)

四、越中の雄、八橋舎康工の俳諧百一集

五、百人の競演 俳調百一首之図屏風(八代九

栄筆)の世界と制作推察

の五つの柱で構成します。八代九栄(年風)の「俳調百一首之図屏風」の紹介を中心におき、それに九代九栄(江波)の俳諧資料や、併せて六代九栄の画業にもふれるものです。

貸出中の館蔵品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されることが少なくありません。様々な事情により当館で展示されていない資料でも、他館の企画展では展示構成上重要な資料として活用されることがよくあるのです。また実物資料以外でも、放送局や出版社へのボジフィルムなどの貸し出しも頻繁に行っています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事のひとつなのです。

- ・ 『従金沢之京都道中名所記』(大鑑コレクション)
 - ・ 『道中案内細見記』(大鑑コレクション)
 - ・ 『諸国道中記』(大鑑コレクション)
 - ・ 矢立 秋草蒔絵印籠ほか
- 企画展「前田土佐守家当主 京へ行く」
九月二十三日(火・祝)まで
会場：前田土佐守家資料館
(金沢市・〇七六 一三三三 一五六二)
- ・ 桜井錠二関係資料(勲二等勲記、東京開成学校修了証、ロンドン大学修学証書、学資寄附願、講演原稿「日独文化協会発表式」、講義ノート、辞令「東京大文学部教授」ほか)
- 常設展示「桜井錠二コーナー」 十月一日(木)まで

会場：金沢ふるさと偉人館

(金沢市・〇七六 二二〇 二四七四)



桜井錠二関係資料
(ロンドン大学修学証書)

- ・ 『平家物語』(谷内家文書)
 - ・ 『源平盛衰記』(大鑑コレクション)
 - ・ 『源平壇之浦大合戦之図』(大鑑コレクション)
 - ・ 『平家物語壇之浦図』(大鑑コレクション)
 - ・ 『壇ノ浦合戦図小屏風』
- 特別展「軍記物語と能の世界 平家の公達」
九月十五日(月・祝)まで
会場：金沢能楽美術館
(金沢市・〇七六 二二〇 二七九〇)

- ・ 螺細細工文台(武田友月)
 - ・ 螺細細工硯箱(武田友月)
 - ・ 人物鳳凰図印籠(武田友月)
- 特別展「赤絵九谷の先駆者『民山』 加賀の色絵陶磁を再興した加賀藩土武田秀平」
十月四日(土)～十一月三日(月・祝)
会場：金沢卯辰山工芸工房
(金沢市・〇七六 二五二 七二八六)



人物鳳凰図印籠
(武田友月)

・ 「畠山義総画像」(複製)

能登畠山家創立600年記念事業

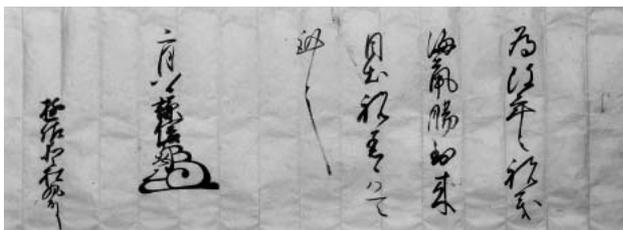
企画展「能登畠山氏と能登の美術」

九月二十日(土)～十月二十六日(日)
会場：石川県七尾美術館
(七尾市・〇七六七 五三一 一五〇〇)

- ・ 県指定有形文化財 織田信長朱印状
 - ・ 上杉謙信書状
 - ・ 県指定有形文化財 畠山義総文書
- 特別展「能登畠山氏と文芸の世界」
九月二十日(土)～十月二十六日(日)
会場：七尾城史資料館
(七尾市・〇七六七 五三 四二五)



県指定有形文化財 織田信長朱印状



上杉謙信書状

記念講演会「日本のふろしき、世界のふろしき」



七月二十七日、熊倉功夫氏（林原美術館館長・国立民族学博物館名誉教授）による記念講演会を開催。世界各地に広く分布する包み布の文化について、民族芸術や民芸といった観点からの話題も交え、興味深くたっぷりお話をいただきました。

これは便利！「ふろしき講座」大盛況



七月三日、二十六日、千里文化財団（大阪）のご協力を得て、特別展開連行事「ふろしき講座」を開催。風呂敷の様々な包み方や「包み」の文化を楽しく体験。「風呂敷ってこんなにすごいモノだったんだ」と、改めて日本文化の知恵と奥深さにしみじみと感じ入ってしまいました。

催事日録

金沢市内の中学生が参加する「わくワーク（work）体験」。これは学校を離れて三日間の職場体験を行う、石川県教育委員会の主催事業です。今年度は七月上旬に額中（五名）、兼六中（六名）、下旬に紫錦台中（五名）、金沢錦丘中（六名）が相次いで参加。生徒たちは初めての職場に緊張しながらも、全員懸命に取り組んでくれました。生徒たちが工夫を凝らした展示コーナーも館内に四ヶ所（第1・2・8展示室）あります。今年もなかなかいいですよ。ぜひその成果をご覧ください。



特別展示室入り口に置かれた謎の巨大な風呂敷包み。皆さん何だか分かりましたか。実はこれ、展示会用の展示ケースを十二メートル四方の、文字通りの「大風呂敷」で包んだものだったのです。この大風呂敷は普通の風呂敷百五十枚をつなぎ合わせたもので、総重量二十一キロもある代物。オープン前日に、大勢のスタッフが小一時間ほど格闘して包み込んだのでした、ふう…。

特別展示室入り口に置かれた謎の巨大な風呂敷包み。皆さん何だか分かりましたか。実はこれ、展示会用の展示ケースを十二メートル四方の、文字通りの「大風呂敷」で包んだものだったのです。この大風呂敷は普通の風呂敷百五十枚をつなぎ合わせたもので、総重量二十一キロもある代物。オープン前日に、大勢のスタッフが小一時間ほど格闘して包み込んだのでした、ふう…。

わくワーク(work)体験無事終了

あっと驚く大風呂敷、さてその中身は？

主な刊行物のご案内	
石川県立歴史博物館展示案内	一、〇〇〇円
石川県立歴史博物館蔵品目録	三、五〇〇円
利家とまつが生きた時代	一、九〇〇円
景勝をめぐる	一、二〇〇円
いしかわの歌仙絵馬	一、四〇〇円
風俗画伯 巖如春	一、四〇〇円
源平合戦と北陸	一、六〇〇円
加賀百万石への道	一、二〇〇円
昭和ワンダーランド	一、〇〇〇円
石川のお宝史	三、〇〇〇円
弥生ムラの風景	一、二〇〇円
世界大風呂敷展	一、八〇〇円
御用絵師梅田九栄と俳諧	未定

開講時間：午後2時
 会場：常設スポット解説：関係各展示室
 れきはくゼミナール・講演会：学習ホール
 受講料：無料 常設スポット解説は無料ですが、他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要です。
 申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

月日	行事	内容
10/5(日)	常設スポット解説	紀尾井町事件の時代 (本康宏史 学芸専門員)
10/13(月祝)	講演会	「絵師九栄の俳諧活動」 講師 大西紀夫氏(富山短期大学教授)
10/18(土)	れきはくゼミナール	江戸時代の俳句と金沢町人 (濱岡伸也 学芸専門員)
11/2(日)	常設スポット解説	長谷川等伯(信春)筆「日乗上人画像」 (北春千代 学芸主幹)
11/15(土)	れきはくゼミナール	謎の絵師 狩野俊信の軌跡 四季耕作図 屏風をめくって(北春千代 学芸主幹)
12/7(日)	常設スポット解説	海辺の絵馬堂(前田武輝 普及課長)
12/20(土)	れきはくゼミナール	「大行灯祭り」をさぐる (大門哲 学芸主査)

行事日録(10~12月)

れきはく
トリヴィア

中庭ピラミッドの謎

「前から気になっていたんだけど、正面受付のある渡り廊下のガラス越しに見える、ピラミッドのようなものはないか？」と、歴博常連のお客さんに尋ねられたことがあります。第一棟と第二棟の間の中庭に据えられた、ピラミッド状の奇妙な物体のことです。それも左右二基あります。展示物ではないのでキャプションも解説パネルもありません。ではその正体は何かというと、赤れんが棟の木柱を支えていた「独立基礎」なのです。使われて



とでは、かなり印象が違います。同一の物だと、すぐには気付く人は少ないかもしれません。

さてこの「基礎」ですが、昭和五十八年の第一棟解体工事の時に取り出されたものです。地表から約二メートル（最下部）下に埋め込まれていました。発掘後どういう経緯でここに置かれたかは定かではありませんが、これはこれではなかなかの風格を感じさせてくれます。すべて解体廃棄してしまうには惜しいということでしょう。残されたのでしようか。ところで歴博そのものが重要文化財である以上は、これもその一部です。すね、やっぱ



歴史体験コーナーでの展示

いる赤れんがは六六六個。実際に支えている様子は、第二棟歴史体験コーナーでも見ることが出来ます。ただ、地中に埋まった姿を上から見下ろしたものと、地面の上にデンと置かれたものを眺めたの

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

次回の展覧会

新春企画展

迫力満点！

近江町の大行灯絵

12月13日(土)～1月25日(日)

第1特別展示室

金沢の風物詩・近江町の大行灯祭り。行灯に貼られる歌舞伎絵は日本最大級です。本展では近江町市場に残る戦前の行灯絵を一挙公開します。その迫力をご堪能あれ。



展示替えなどによる休館日(10～12月)

10月	は休館日なし
11月4日(火)～5日(水)	2日間
12月11日(木)～12日(金)	2日間
12月27日(土)～1月3日(土)	8日間

本多の森から

話題を呼んだ「世界大風呂敷展」。「大風呂敷」の部分は本展に限り「ダイフロシキ」と読めます。決して「オオフロシキ」ではありませんので念のため。

今号表紙と「れきはく年間行事予定表」表紙にも掲載されている梅田九栄「俳調一百一首之図屏風」は、百人の俳人の肖像をユイモラスなタッチで描き、その俳句を紹介したもの。何と云っても秋の特別展示室を彩る大作です。江戸中期のベストセラー「俳諧百一集」(八橋舎康工編)とともに見逃せない逸品。乞御期待！